

平成 24 年度教育に関する事務の管理及び
執行の状況の点検及び評価の結果に関する報告書

平成 24 年 8 月 31 日

二戸市教育委員会

目 次

◆点検・評価の概要	1 頁
◆ I 平成 23 年度二戸市教育委員会の運営状況（活動内容）	3 頁
◆ II 二戸市教育振興基本計画に基づく平成 23 年度「基本方針（目指す姿）を実現するための施策の方向」の取組実績（5 分野 13 項目）	6 頁
1 生涯学習の充実	7 頁
2 学校教育の充実	9 項
3 社会教育の充実	24 項
4 芸術文化の振興	34 項
5 スポーツ・レクリエーションの振興	46 項

点検評価の概要

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 27 条第 1 項により、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し議会に提出するとともに、公表しなければならないことになっています。また、点検・評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとされています。(同条第 2 項)

このことから、教育委員会では、二戸市教育振興基本計画に掲げられた「基本方針（目指す姿）を実現するための施策の方向」について、平成 23 年度において予算措置がなされたものを基本として、それぞれが分野の目的に沿った取り組みができているかどうかを必要性・有効性・効率性・公平性の視点で点検・評価（一次評価）を行うとともに、学識経験を有する者を活用した点検・評価（二次評価）を併せて実施し、報告書にまとめました。

なお、これら点検・評価の具体的な項目や議会への報告及び公表の方法については、特に国が基準を定めることは行わず、各教育委員会が実情を踏まえて決定することとされています。

■点検・評価の対象年度

平成 23 年度

■点検・評価の内容

- I 平成 23 年度二戸市教育委員会の運営状況（活動内容）
- II 二戸市教育振興基本計画に基づく平成 23 年度「基本方針（目指す姿）を実現するための施策の方向」の取組実績
(5 分野 13 項目)

■点検・評価の方法

教育委員会の運営状況及び平成 23 年度「基本方針（目指す姿）を実現するための施策の方向」の取組実績を取りまとめ、内部評価（一次評価）を行った後、その結果について、教育に関し学識経験を有する次の者から意見・提言を伺い、外部評価（二次評価）を実施いたしました。

【二戸市教育行政に関する点検及び評価等検証委員】

(敬称略、順不同)

氏 名	委 員 の 区 分
横 山 健 治	教育全般に学識経験を有する者
藤 田 秀 樹	二戸市立中央小学校評議員
千 葉 文 齋	二戸市社会教育委員
田 口 和 子	二戸市文化財調査委員

■審議の経過

- 1 平成 24 年 7 月 18 日（水）～平成 24 年 7 月 27 日（金）
教育委員会事務局において、二戸市教育振興基本計画に掲げられた平成 23 年度「基本方針（目指す姿）を実現するための施策の方向」に対する内部評価（一次評価）を行いました。
- 2 平成 24 年 8 月 2 日（木）
第 1 回検証委員会議を開催し、内部評価に関する意見・提言（外部評価・二次評価）を伺いました。
- 3 平成 24 年 8 月 23 日（木）
第 2 回検証委員会議を開催し、内部評価に対する意見・提言（外部評価・二次評価）を伺いました。
- 4 平成 24 年 8 月 31 日（金）
平成 24 年第 8 回二戸市教育委員会定例会において、「教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について」が審議され、議決されました。

I 平成 23 年度二戸市教育委員会の運営状況（活動内容）

■二戸市教育委員会の概要

1 教育委員会の目的

教育の機会均等、教育水準の維持向上及び地域の実情に応じた教育の振興を図るため、広く地域住民の意向を反映した責任ある教育行政を実現します。

2 教育委員会制度の仕組み

- ・教育委員会は、地域の学校教育、社会教育、文化、スポーツ等に関する事務を担当する機関として、全ての都道府県及び市町村に設置されています。
- ・首長から独立した機関として位置づけられています。
- ・教育委員会は、教育行政における重要事項や基本方針を決定し、それに基づいて教育長が具体的な事務を執行しています。

3 教育委員会の定数

5 人

二戸市教育委員会委員（平成 24 年 3 月 31 日現在）

	氏 名	職 歴 等
委員長	清 川 泰	元小学校長
委員（委員長職務代理者）	横 濱 雪 子	農 業
委員（委員長職務代理者）	森 川 則 子	薬 剤 師
委員	平 栗 壽 隆	住 職
委員（教育長）	鳩 岡 矩 雄	元高等学校長

■教育委員会の主な活動内容

1 教育委員会議

(1) 教育委員会議の開催回数

平成 23 年度実績（平成 23 年第 4 回定例会～平成 24 年第 3 回定例会）

- ・定例会 12 回
- ・臨時会 2 回
- ・協議会 4 回
- 総計 18 回

(2) 議決の状況（付議事項数 計 46 件）

- ・教育委員会規則・規程等の制定・改廃 13 件
- ・教育機関の長・その他機関等の長の人事 4 件
- ・協議会・審議会委員等の任命・委嘱 12 件
- ・同意案件 6 件
- ・その他 11 件

(3) 教育委員会会議（定例会・臨時会）の傍聴者数

平成 23 年度実績 延べ 0 人

2 教育委員の活動（平成 23 年度実績）

学校訪問、会議・行事等への出席状況

- ・教育委員会が主催する行事、式典、会議等への出席 143 回
- ・教育委員会以外の団体等が主催する行事、式典、会議等への出席 94 回

3 事業費（平成 23 年度実績）

決算額	2,696 千円
・報酬	2,496 千円
・旅費	115 千円
・交際費	61 千円
・負担金	24 千円

■点検・評価内容

1 内部評価（一次評価）

- ◆ 平成 23 年度における教育委員の活動は、教育委員会が主催する行事・式典・会議等への出席が 143 回、教育委員会以外の団体等が主催する行事・式典・会議等への出席が 94 回となった。委員は積極的に学校訪問等を行い、教育現場が抱える課題の把握に努め、教育委員会議においてはその改善を求めて積極的に発言・提言を行っている。
- ◆ 教育委員は、教育行政の運営に関して適切な判断・決定を行うとともに、当面する教育行政の諸課題について深い理解と当事者としての自覚が求められることから、二戸地区教育推進協議会の研修会や東北六県市町村教育委員会連合会教育委員・教育長研修会に参加し、資質の向上に努めた。
- ◆ 平成 23 年度に教育委員会のホームページを立ち上げ、教育行政にかかわる情報提供を図った。今後は、内容の充実を図ってまいりたい。

2 外部評価（二次評価／検証委員の意見・提言等）

1 平成23年度二戸市教育委員会の運営状況（活動内容）

- ◆ 平成23年度から始まる「二戸市教育振興基本計画」の巻頭文の中で、点検・評価の存在意義、位置づけが明言されたことは、とても良いことだと思います。仕事の進め方、取り組みについて「計画－実行－評価－改善」のサイクルが職員の心に深く刻み込まれるならば、今後の教育行政の躍進は素晴らしいものになると思います。教育委員の先生方におかれましては、事務局職員を鼓舞し、育てられることについても、ご尽力くださるよう期待いたします。
- ◆ また、同上の巻頭文の中に「施策成果指数（数値目標）」を設定したとありましたので、画期的なことだと驚きながら、「基本計画」と「点検・評価分析シート」を対比して見たところ、数値に誤りがあるところや、数値目標を設定していながら、分析シートの中で対比評価していなかったり、項目すら起こしていないものも見受けられました。数値目標を設定した事業については、それとの対比で必ずきちんと評価すべきではないでしょうか。
- ◆ 点検・評価の4つの視点、「必要性・有効性・効率性・公平性」については、評価文を書きにくいとか、まとめるのが難しいという声が前からありましたが、職員の方がやりやすいように改善する考えはないのでしょうか。平たい言葉に置き換えると、この事業は「むだ」だ、内容的に「むら」があるとか、事業を続けるには相当「むり」があるといったことになろうかと思います。評価・点検の仕方として、「だらり」の法則があると教えられたことがあります。参考までに書きましたが、今後、検討される場合の視点にしてみてもはどうでしょうか。
- ◆ 傍聴者ゼロが続いていますが、市議会の傍聴席のように入り口を別にし、委員さんや職員の方々に顔を見られないで傍聴できるようにしないと足を運びがたいのではないのでしょうか。
- ◆ ホームページを立ち上げ、情報提供を図ることはとても良いことであるが、ホームページの内容、表現に間違いのないように点検を行ってほしい。
- ◆ 内部評価（一次評価）において、行事・会議等への出席回数の表記のみならず、「市民から信頼される教育行政の推進」の視点に立った、現状と課題に関する評価が必要と考えられる。
- ◆ 教育委員会会議の傍聴者数の0人が続いており、開かれた教育委員会づくり（透明化）への取り組みについて、事前に議題の公開等更なる工夫をしてほしい。
- ◆ 教育委員会の事務局員の取り組みが、市民から信頼される組織体として機能しているか内部での検討を継続的に行ってほしい。
- ◆ 一次評価のとおり、今後も学校訪問等に力を入れてほしい。
- ◆ 「二戸市教育振興基本計画」に各担当課の現状と課題が出ているが、点検・評価分析シートには基本計画の中の現状と課題が抜かれているので、基本計画に則った「現状と課題」の中で評価をしてほしい。

Ⅱ 二戸市教育振興基本計画に基づく平成 23 年度「基本方針（目指す姿）を実現するための施策の方向」の取組実績

■点検・評価項目

点検・評価項目は、二戸市教育振興基本計画に掲げられた「基本方針（目指す姿）を実現するための施策の方向」について、平成 23 年度において予算措置がなされたものを基本としています。

- 1 - 生涯学習の充実 ～市民が生涯にわたっていきいきとくらすために～
 - (1) 広がりと深まりのある生涯学習の推進
- 2 - 学校教育の充実 ～子どもたちが自分の力でこれからの時代を切り開くために～
 - (1) 自立して生きる力を育む教育の推進
 - (2) 特別支援教育の推進
 - (3) 健康・安全教育の推進
 - (4) 幼児教育・高等学校教育の充実
 - (5) 教育環境の整備・充実
- 3 - 社会教育の充実 ～社会全体で教育力向上のために～
 - (1) 教育振興運動を基盤とした教育力の向上
 - (2) 社会教育施設の環境整備
- 4 - 芸術文化の振興 ～潤いのある豊かな生活のために～
 - (1) 芸術文化の振興
 - (2) 文化財の保護・保存と活用
 - (3) 郷土への誇りと愛着を深める地域文化の継承
- 5 - スポーツ・レクリエーションの振興 ～スポーツを通じた健康づくりを進めるために～
 - (1) みんなが楽しむスポーツの振興
 - (2) 夢と感動の競技スポーツの推進

以上、5 分野 13 項目

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート（一次）

事業番号		1		評価者	担当課等	生涯学習課
事業名称		生涯学習の充実				
項目名称		(1) 広がりと深まりのある生涯学習の推進				

① 事務事業概要	実施根拠法令		社会教育法第5条（市町村教育委員会の事務）					
	実施方法		■直接実施 □業務委託 □補助金交付 □その他（ ）					
	事業費内訳		□国庫補助 □県単 ■一般財源 □その他（ ）					
	対象（～に対して）		市民 放送大学生 保護者及び地域住民 1歳6カ月健診対象親子					
	目的（目指すべき姿）		あらゆる世代の市民が「いつでも・どこでも・だれでも」学習できる、多種多様な市民ニーズに対応した環境整備を進める。また、生涯学習に市民一人ひとりが意欲と生きがいをもって取り組めるよう、主体的に参加できる学習機会の充実を目指す。					
	事業内容 (平成23年度)		・生涯学習情報の提供（広報誌「こしゃーる」欄への掲載） ・市民の生涯学習活動の支援 放送大学岩手学習センター二戸校の管理と活用 成人教育講座：高齢者のための講演会（公開講座）、パソコン教室、浄法寺地区教育連絡会 学校開放講座：心肺蘇生法講習会、食育講話、防犯講話、読書講演会等 1歳6カ月健診時の読み聞かせ講座					

② 事業実績・効果	区 分			単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	事業の実績	1	生涯学習情報掲載誌の発行回数	回	3	3	12	12	12
		2	二戸校配架科目（延べ）	科目			77	101	120
		3	成人教育講座開催数	回	7	9	5	4	3
		4	学校開放講座開催数	回	8	12	15	7	12
		5	読み聞かせ講座開催数	回	10	10	10	10	10
	事業効果	1	二戸校利用者数	人			53	120	54
		2	成人教育参加者数（延べ）	人	244	106	385	556	229
		3	学校開放講座参加者数（延べ）	人	768	1,291	1,022	392	230
		4	読み聞かせ講座参加者数	人	225	228	214	332	394

③ 事業費	区 分			単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	決 算 額			千円	836	1,017	2,014	556	574
	年度の歳出（節別内訳）			千円	報償費 499 需用費 317 役務費 20	報償費 729 需用費 261 役務費 27	報償費 458 需用費 38 役務費 20 備品購入費 1,498	報償費 337 需用費 44 役務費 141 備品購入費 34	報償費 123 需用費 44 役務費 381 備品購入費 26

④ 事業評価	担当課による一次評価 (内部評価)	【必要性】 生涯学習に関わる情報を市民に提供することで、市民の自主的な学びの支援や学びへの意欲の向上に資することが期待される。また、高度化・複雑化する市民の学習ニーズに応えるため、様々な学習機会の提供に努める必要がある。
		【有効性】 放送大学二戸校は、学習者のライフスタイルに合わせた学習環境と「学び直し」の機会の提供が図られ、市民の学習意欲向上に役立つことが期待される。成人教育では、防災意識を高める講演会やパソコン教室など、現代的課題に則した内容の講座を開催し、好評を得た。今後は近隣大学との連携をより強化し、幅広い分野について市民の教養を深める機会の提供に努めたい。

④ 事業評価	担当課による一次評価 (内部評価)	【効率性】 市広報誌による生涯学習情報の提供は、印刷製本にかかる費用が削減され、効率的に市民へ情報を提供することができている。パソコン教室開催にあたっては、市内でパソコンを備えた会場の確保が難しく、設置費込みの費用負担となったものの、市民からは「また開催してほしい」という声が多く聞かれ、需要の高さを実感することとなった。
		【公平性】 放送大学二戸校は県内に3カ所あるセンター外視聴施設の中で唯一、一般市民にも開放しており、誰でも気軽に学ぶことのできる環境が整っているが、利用者数は減少を見せている。BS デジタル放送での視聴が可能になったことや図書館工事に伴う休館期間の影響も考えられるが、一般への認知度は未だ低い。今後も周知に力を入れるとともに、図書館内での案内表示に改善を加えるなどし、より利用しやすい施設づくりに努めたい。参加者の減少がみられた学校開放講座については、夜間や休日の開催を増やすなど、学校とも連携を図りながら多くの保護者や地域住民の参加を促す取り組みが求められる。読み聞かせ講座は健診の実施日に行うことで、該当する子どもを持つ全ての家庭への参加機会の提供ができている。

2 外部評価（二次評価／検証委員の意見・提言等）

Ⅱ 二戸市教育振興基本計画に基づく平成23年度「基本方針（目指す姿）を実現するための施策の方向」の取組実績

1 生涯学習の充実 ～市民が生涯にわたっていきいきとくらすために～

（1）広がりと深まりのある生涯学習の推進

1ー（1）広がりと深まりのある生涯学習の推進

◆ 「基本計画」中に数値目標を掲げている事業について見ると、目標数値と対比した点検・評価がなされていない。放送大学二戸校配架科目数は、23年度において目標数値を20%も上回る120となっているが、成果として高く評価していいのではないかと。

◆ 放送大学の活用は、「基本計画」の中の主要施策である。配架科目数は順調に増加してきているが、利用者数は23年度において大幅に減少した。利用効率を高めるために市独自の工夫や努力をしてきているが、現状は効率のいい事業とは言いがたいと思う。それは効果測定の仕方に問題がないのか点検してみる必要がある。利用者数ではなく、利用科目延べ数で測定したら効果数値が大きくなるだろうか。検討いただきたい。

また、利用効率を高めるための方策として、図書館の新刊情報のように「こしゃーる」に、毎月何科目か内容を紹介する文章を添えて載せてみたらどうでしょうか。それから、もしも閲覧用の機器を館外に持ち出せるのであれば、放送大学の「学び直し」出前講座のような形にして、老人大学とか老人クラブに出張デモンストレーションをやってみてはいかがでしょうか。

◆ パソコン教室の需要が高くなっていることについて、今後の対策が必要と考えます。

◆ 放送大学の見学をさせてほしい。

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況

点検・評価分析シート（一次）

事業番号		2		評価者	担当課等	教育企画課			
事業名称		学校教育の充実							
項目名称		(1) 自立して生きる力を育む教育の推進							
① 事務事業概要	実施根拠法令		教育基本法 学校教育法						
	実施方法		☒ 直接実施 ☐ 業務委託 ☒ 補助金交付 ☐ その他（ ）						
	事業費内訳		☐ 国庫補助 ☐ 県単 ☒ 一般財源 ☒ その他（地域づくり人づくり基金）						
	対象（～に対して）		児童 生徒 保護者 教職員						
	目的（目指すべき姿）		学校教育は、次代を担う児童生徒が心身ともに大きく成長するための基盤を築く重要な役割を担っている。本市では、これまで学校・家庭・地域の連携により、学力の向上を図るとともに、豊かな心や健やかな体を育む教育を推進してきた。しかし、核家族化や生活様式の多様化、地域社会とのつながりの希薄化など、子どもたちを取り巻く環境は大きく様変わりし、その影響から基本的な生活習慣や自ら学ぼうとする力、考え行動する力の低下が懸念されている。そのため、学校・家庭・地域の連携をさらに強化し、子どもたちが主体的に学び、豊かな人間性を育む教育の推進を目指す。						
	事業内容 (平成23年度)		1 学力向上対策の推進 2 教育相談・適応指導の充実 3 国際理解教育の推進						
② 事業実績・効果	区 分			単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	事業の実績	1	学習定着度状況調査 (算数・数学 県平均 100)		小 5 96 中 2 91	91	96	98	102
		2	不登校児童生徒の出現率	%	小 0.12 中 1.10	0.12 2.53	0.06 3.04	0.06 2.78	0.13 2.17
		3	異文化交流事業参加者	人	—	—	—	24	28
		4	海外派遣参加者	人	15	8	—	—	10
	事業効果	1							
③ 事業費	区 分			単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	決 算 額			千円	17,090	15,528	12,878	13,847	22,454
	年度の歳出（節別内訳）			千円	報酬 5,591 共済費 839 旅 費 139 役務費 56 委託料 5,796 使用料及び賃借料 55 補助金 4,614	報酬 3,155 共済費 214 旅 費 168 需用費 3 委託料 8,988 補助金 3,000	報酬 2,008 共済費 3 旅 費 168 需用費 167 役務費 32 委託料 10,500	報酬 3,325 共済費 8 旅 費 21 需用費 3 委託料 10,290 補助金 200	報酬 7,061 共済費 25 報償費 298 旅 費 408 需用費 138 役務費 84 委託料 10,290 備品購入費 50 補助金 4,100

④事業評価	担当課による一次評価（内部評価）	【必要性】 1 本市の児童生徒の学力は、全国学力・学習状況調査および岩手県小・中学校学習状況定着度状況調査の結果、多くの学年で県の平均を下回っている。すべての児童生徒に「読み書き計算」を確実に身に付けさせること、そのために授業をととして学力を育む教員の資質を向上させることは、必要不可欠である。 2 児童生徒、保護者が抱える問題の解決には、学校だけでは対応が難しい状況もあり、教育委員会事務局内に配置する教育相談員の必要性は高い。また、不登校児童生徒の出現率は、中学校において平成２０年度以降県の出現率を上回っており、教育相談・適応指導の充実が求められる。 3 国際社会に生きる人材の育成のためには、学校における国際理解教育の取組と併せて異文化交流事業及び海外派遣事業は不可欠である。 【有効性】 1 教員の資質向上のために、学力向上研究協議会を発足し、全国学力調査・岩手県学習状況調査の結果を分析し、課題に対する改善策を講じるとともに、学力向上に対して先進的に取り組んでいる他県の小中学校を視察し、授業改善に努めてきた。また、学力向上推進校を指定し、重点的に市として支援してきた。その結果、授業改善のための校内研究に取り組む学校が多く見られるようになった。授業自体の質も向上し、県の指導主事より高い評価を得るなど、教員の資質は確実に向上してきている。岩手県学習定着度状況調査においても、目標であった平成 23 年度の小学校 5 年生 98、中学 2 年生 97 の指数を上回る結果となった。 2 教育相談員を複数配置したことで、定期的な学校訪問を円滑に実施し、学校の児童生徒の状況についての情報共有の一層の充実が図られるようになった。また、相談業務においても、学校生活に関すること、生活及び行動に関すること、家庭教育に関すること、その他の児童生徒の多岐にわたる問題全般について、適切な対応につとめている。 3 生徒にとって国際理解教育を実践的・体験的に取り組むことができ、国際社会の一員としての意識が高まり、郷土を愛し、国際人として積極的に活躍できる人材育成に寄与している。 【効率性】 1 ３年計画の学力向上プロジェクトであるが、取組内容を焦点化することで市内小中学校が同じ方向で関わることができた。各種学力調査の結果、成果が表れていることから効果がでているものと考ええる。 2 学校との連携を強化するとともに、保健、福祉等の関係機関と連携し情報共有に努めている。 3 異文化交流事業は、岩手大学が実施する事業を活用することで、企画・立案、運営等を効率的に行っている。 【公平性】 1 学力調査の結果については、市の広報を通じて市民に公表した。また、教育振興運動や PTA 活動等で学力向上の取組を周知した。 2 児童生徒、保護者、学校関係者に広く柔軟に対応している。 3 本事業に係る周知・募集については、各学校を通じて全生徒に対して行っている。
--------------	-------------------------	--

2 外部評価（二次評価／検証委員の意見・提言等）

Ⅱ 二戸市教育振興基本計画に基づく平成23年度「基本方針（目指す姿）を実現するための施策の方向」の取組実績

2 学校教育の充実 ～子どもたちが自分の力でこれからの時代を切り開くために～

- （1）自立して生きる力を育む教育の推進
- （2）特別支援教育の推進
- （3）健康・安全教育の推進
- （4）幼児教育・高等学校教育の充実
- （5）教育環境の整備・充実

2－（1）自立して生きる力を育む教育の推進

- ◆ 学習定着度状況調査について見ると、平成23年度において数値目標を上回る実績を達成できたことは高く評価していいことだと思います。今後は平成27年度の数値目標達成に向けて引き続きご尽力いただきたい。
- ◆ 不登校児童生徒の出現率について見ると、平成23年度は小中いずれも目標数値を下回るものとなっており、事業の取り組みが有効に働いていることがわかります。
- ◆ 学力向上プロジェクトの成果が出てきていることは評価できる。さらなる取り組みにより、二戸地区の学力全体のレベルアップを図るようにしてほしい。
- ◆ 学力向上について、県との比較のみならず、様々な検査との比較、二戸の児童生徒の傾向や分析等を深める必要があること。教育研究所を中心とした指導法の検討や、指導後の経年的な調査等の推進を深めてほしい。
キャリア教育へのバックアップの推進について、教育委員会の具体的な提案がほしい。海外派遣事業を再開し実施した、課題・問題点について整理しておく必要があるように思われる。

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート（一次）

事業番号		2		評価者	担当課等	教育企画課			
事業名称		学校教育の充実							
項目名称		(2) 特別支援教育の推進							
①事務事業概要	実施根拠法令		教育基本法 学校教育法						
	実施方法		■直接実施 □業務委託 □補助金交付 □その他（ ）						
	事業費内訳		□国庫補助 □県単 ■一般財源 □その他（ ）						
	対象（～に対して）		障がいを持つ児童生徒や特別支援を必要とする児童生徒						
	目的（目指すべき姿）		特別支援教育は、個々の教育的ニーズに応じた適切な対応が求められている。本市では、これまで特別支援教員補助員の配置や巡回教育相談の実施、関係機関との連携により障がいの状況に応じた指導を進めてきた。 しかし、発達障がいなど特別な支援を必要とする児童生徒が増加しており、一人ひとりの状況に応じた学習環境の設定やきめ細やかな対応が期待されている。 そこで、特別支援教育支援員を配置し、学習・学校生活両面の支援を行い教員を補助することにより、より円滑な学校教育活動の遂行を図る。 また、特別支援学級や通級指導教室、特別支援学校中学部などについて、状況に対応した設置に向けて要望を行う。						
	事業内容 (平成23年度)		・特別支援教育の推進 ・特別支援学校中等部の誘致						
②事業実績・効果	区 分			単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	事業の実績	1	特別支援員の人数	人	8	9	14	14	13
		2	特別支援員配置校	校	5	8	10	9	9
		3							
		4							
事業効果	1								
③事業費	区 分			単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	決 算 額			千円	9,042	9,907	14,783	14,922	14,074
	年度の歳出（節別内訳）			千円	報酬 9,907 共済費 46	報酬 9,907 共済費 46 旅費 7	報酬 14,783 共済費 44 旅費 10	報酬 14,871 共済費 45 旅費 6	報酬 13,989 共済費 47 旅費 8 需用費 30
④事業評価	担当課による一次評価 (内部評価)	【必要性】 特別な支援を必要とする児童生徒が安心して学校生活を送ることができることにより、学級全体の円滑な運営につながる。また、児童生徒の状況に応じ、必要な特別支援学級や、特別支援学校小学部からつながる中学部が設置され、特別支援教育の充実が図られることが必要である。							
		【有効性】 支援員の教員補助により支援を必要とする児童生徒へのきめ細やかな支援が可能になり、対象児童生徒の効果的な育成が図られるとともに、担任が学級全体に目を向けた指導が行えるようになり、学級全体にもたらす教育効果が高い。							
		【効率性】 支援員について、児童生徒、学校の実情を把握し、年間を通じて配置することにより、保護者、児童生徒との信頼関係が構築され、必要な支援が円滑に行える。							
		【公平性】 就学指導委員会での判定、障がい児調査で得た情報により支援を必要とする児童生徒、学校を把握し、支援員の配置や特別支援学級の設置要望などにつなげている。							

2 外部評価（二次評価／検証委員の意見・提言等）

Ⅱ 二戸市教育振興基本計画に基づく平成23年度「基本方針（目指す姿）を実現するための施策の方向」の取組実績

2 学校教育の充実 ～子どもたちが自分の力でこれからの時代を切り開くために～

- （1）自立して生きる力を育む教育の推進
- （2）特別支援教育の推進
- （3）健康・安全教育の推進
- （4）幼児教育・高等学校教育の充実
- （5）教育環境の整備・充実

2－（2）特別支援教育の推進

- ◆ 特別支援教育支援員の配置は、特に学習時間中（授業時）の効果は大きいものと考えます。支援員の配置については、各学校の要望に応じられるよう配慮してほしい。
- ◆ 特別支援教育において指導者の経験・熱意等が大きく影響されることが考えられる。県関係の研修のみならず、諸検査の方法やカウンセリングのあり方も含め、担当者の幅広い研修を期待したい。
特別支援学級への入級指導等について、関係機関との連絡調整など、教育委員会の推進を強化することが必要と思われる。

(様式 1)

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況

点検・評価分析シート（一次）

事業番号	2			評価者	担当課等	学校給食センター			
事業名称	学校教育の充実								
項目名称	(3)健康・安全教育の推進－②								
①事務事業概要	実施根拠法令		学校給食法						
	実施方法		☒ 直接実施 ☒ 業務委託 ☐ 補助金交付 ☐ その他（ ）						
	事業費内訳		☐ 国庫補助 ☐ 県単 ☒ 一般財源 ☒ その他（学校給食徴収金等）						
	対象（～に対して）		児童 生徒 教職員						
	目的（目指すべき姿）		学校給食は児童生徒の心身の健全な発達に資するものであり、かつ食に対する正しい理解と適切な判断力を養う上で重要な役割を果たすものであることから、学校給食の普及充実及び学校における食育の推進を図ることを目的とする。						
	事業内容 （平成23年度）		市内小・中学校に対する学校給食の提供 小学校9校（盛岡みたけ支援学校石切所分教室を含む）、中学校5校						
②事業実績・効果	区 分			単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	事業の実績	1	給食数	食	526,727	516,205	489,808	477,227	474,031
		2	給食日数	日	183	181.5	177.5	178.5	180.5
		3							
		4							
	事業効果		- 適切な栄養の摂取による健康の保持増進が図られる。 - 日常生活における食事について正しい知識を深め、健全な食生活を営むことができる判断力を培い、望ましい食習慣を養う事についての理解を深めることができる。 - 学校生活を豊かにし、明るい社交性及び協同の精神を養うことができる。						
③事業費	区 分			単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	決 算 額			千円	107,025	109,728	112,764	119,770	119,165
	年度の歳出（節別内訳）			千円	賄材料費 107,025	賄材料費 109,728	賄材料費 112,764	賄材料費 119,770	賄材料費 119,165
④事業評価	担当課による一次評価（内部評価）	【必要性】 近年、食生活を取り巻く社会環境の変化に伴い、朝食欠食や食生活の乱れ、肥満・痩身傾向の増加など、様々な健康問題が取り上げられている。成長期にあたる児童・生徒にとって、健全な食生活は、健康な心身を育むために必要不可欠なものである。							
		【有効性】 学校給食を通して上記の問題の解決を図ることができる。							
		【効率性】 給食センター1施設で市内すべての小中学校に給食を提供することが可能であり、効率的である。							
		【公平性】 小・中学校児童生徒全員に、その発育段階に応じてカロリー等の栄養計算をしたメニューによる給食を提供している。また、アレルギーを持った児童生徒にも対応したメニューを提供している。							

2 外部評価（二次評価／検証委員の意見・提言等）

Ⅱ 二戸市教育振興基本計画に基づく平成23年度「基本方針（目指す姿）を実現するための施策の方向」の取組実績

2 学校教育の充実 ～子どもたちが自分の力でこれからの時代を切り開くために～

- （1）自立して生きる力を育む教育の推進
- （2）特別支援教育の推進
- （3）健康・安全教育の推進
- （4）幼児教育・高等学校教育の充実
- （5）教育環境の整備・充実

2－（3）健康・安全教育の推進－①

- ◆ 肥満対策について家庭の協力が不可欠であるが、プライバシーに係わる部分もあると思われ、学校保健会と教育委員会が連携して家庭・地域に働きかける取り組みが継続的に必要と思われる。
自分の命は自分で守るなど、防災教育について各校への指導の推進を深める事が必要と思われる。

- ◆ 肥満児対策は、家庭と連携することが大切だと思う。

(様式 1)

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況

点検・評価分析シート（一次）

事業番号	2			評価者	担当課等	学校給食センター			
事業名称	学校教育の充実								
項目名称	(3)健康・安全教育の推進－③								
①事業概要	実施根拠法令		食育基本法						
	実施方法		☒ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 補助金交付 ☐ その他（ ）						
	事業費内訳		☐ 国庫補助 ☐ 県単 ☒ 一般財源 ☐ その他（ ）						
	対象（～に対して）		市内児童・生徒及び教職員						
	目的（目指すべき姿）		地場産品の使用による、地元農業者の生産意欲向上と地域活性化及び児童生徒における二戸市の食文化等の理解の増進						
	事業内容 （平成23年度）		二戸市産農産物等の地消推進						
②事業実績・効果	区 分			単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	事業の実績	1	地産地消	%	36.1	33.0	40.5	36.9	40.6
		2							
		3							
		4							
	事業効果		・子供を通じた家庭での地元産意識の向上と伝統食の再認識 ・食生活が人々の様々な活動に支えられている事についての理解を深める ・生産者の安全な食材提供への意識の向上						
③事業費	区 分			単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	決 算 額			千円	107,025	109,728	112,764	119,770	119,165
	年度の歳出（節別内訳）			千円	賄材料費	賄材料費	賄材料費	賄材料費	賄材料費
					107,025	109,728	112,764	119,770	119,165
④事業評価	担当課による一次評価（内部評価）	【必要性】 地場産品の食材使用により、児童・生徒に地元のすぐれた食文化についての理解を深めると共に、生産者の品質、安全性への意識の向上を図る必要がある。							
		【有効性】 子どもを通じた家庭での地元意識の向上と、食生活が人々の様々な活動に支えられている事についての理解を深め、地場産品の消費拡大と販路の確保及び伝統食の理解を増進する。							
		【効率性】 新鮮で安全な食材の確保と輸送経費の削減による給食単価の抑制ができる。							
		【公平性】 地産地消による自給率の向上と残食のリサイクルによる循環型食文化の形成を図っている。							

2 外部評価（二次評価／検証委員の意見・提言等）

Ⅱ 二戸市教育振興基本計画に基づく平成23年度「基本方針（目指す姿）を実現するための施策の方向」の取組実績

2 学校教育の充実 ～子どもたちが自分の力でこれからの時代を切り開くために～

- （1）自立して生きる力を育む教育の推進
- （2）特別支援教育の推進
- （3）健康・安全教育の推進
- （4）幼児教育・高等学校教育の充実
- （5）教育環境の整備・充実

2－（3）健康・安全教育の推進－②

- ◆ 今後も地産地消に努め、安全（放射能にも）な学校給食の推進を図ってほしい。給食関係の事故（食中毒・異物混入等）防止に万全を図る対応を継続してほしい。
- ◆ 給食から「食」についての学びに結びつけていることがよかった。栄養士による食育指導等は今後も続けてほしい。

(様式1)

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート（一次）

事業番号	2			評価者	担当課等	教育企画課			
事業名称	学校教育の充実								
項目名称	(4) 幼児教育・高等学校教育の充実								
① 事務事業概要	実施根拠法令	二戸市幼稚園就園奨励費補助金交付要綱 幼稚園教育要領 保育所保育指針 学習指導要領							
	実施方法	☒ 直接実施 ☐ 業務委託 ☒ 補助金交付 ☐ その他（ ）							
	事業費内訳	☒ 国庫補助 ☐ 県単 ☐ 一般財源 ☐ その他（ ）							
	対象（～に対して）	保育料を減免する幼稚園の設置者 幼稚園・小学校の教諭 保育士							
	目的（目指すべき姿）	家庭環境、家族形態の多様化により、家庭の教育力の低下が懸念され、集団における幼児教育が重要視されることから、施設の円滑な運営と就園に対する支援を継続するとともに、幼児が円滑に小学校に適應できるよう、幼稚園・保育所・小学校間の連携を深め、情報共有と相互理解に努める。 また、高等学校の再編整備が進められているなか、小中学校で培われた学習意欲や向上心の伸長を図るため、多様な生徒の受け入れが可能となる環境整備を関係当局に働きかける。							
	事業内容 （平成23年度）	1 就学前教育の支援 2 幼・保・小連携の強化							
② 事業実績・効果	区 分			単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	事業の実績	1	就園奨励費補助事業	人	215	216	194	186	188
		2	幼・保・小連携推進会議	回	1	3	3	3	3
		3							
		4							
	事業効果	1							
③ 事業費	区 分			単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	決 算 額			千円	17,801	17,847	18,037	19,417	20,873
	年度の歳出（節別内訳）			千円	補助金	補助金	補助金	補助金	補助金
					17,801	17,847	18,037	19,417	20,873
④ 事業評価	担当課による一次評価（内部評価） 【必要性】 1 就学前教育充実のため、幼稚園教育の普及・充実を図る必要がある。 2 就学前教育では、幼児期の体験がその後の成長に大きな影響を及ぼすと言われている。就学前教育の重要性の啓発を図るとともに、次の段階に円滑に進むために、それぞれの連携を強化する必要がある。 【有効性】 1 保護者の経済的負担を軽減することで、幼稚園への就園が奨励され有効である。 2 年2回の幼・保・小連携推進会議や年1回の幼・保・小連携研修会を行っている。幼稚園・保育所・小学校の教職員が一堂に会し、情報交流や意見交換、授業参観を行うことにより、小学校での円滑な受け入れが可能となり、一層の相互理解と指導方法の工夫ができるようになった。 【効率性】 1 国の補助制度（幼稚園就園奨励補助金）があることから効率的であるが、国の補助要綱の補助率（3分の1）による補助額となっていないため、市の負担割合が多い。（平成23年度は20,873千円×1/3≒6,957千円に対し、5,101千円の国庫補助） 2 幼・保・小連携推進会議は5月と2月に、幼・保・小連携研修会は6月に行っている。就学に際して、送る側と迎える側の時期をとらえた会議と研修会により必要な情報を交換することができている。 【公平性】 1 保護者を対象として、国の補助基準に準拠して補助金を交付している。 2 幼稚園・保育所・小学校の教職員が一堂に会することにより、校種や管轄が違う中での教育状況についての情報を交流するとともに、子どもの育ちについて考えることができた。子どもたち一人ひとりの小学校への円滑な接続のために、幼児教育の状況を踏まえる良い機会となっている。								

2 外部評価（二次評価／検証委員の意見・提言等）

Ⅱ 二戸市教育振興基本計画に基づく平成23年度「基本方針（目指す姿）を実現するための施策の方向」の取組実績

2 学校教育の充実 ～子どもたちが自分の力でこれからの時代を切り開くために～

- （1）自立して生きる力を育む教育の推進
- （2）特別支援教育の推進
- （3）健康・安全教育の推進
- （4）幼児教育・高等学校教育の充実
- （5）教育環境の整備・充実

2－（4）幼児教育・高等学校教育の充実

- ◆ 就学前教育について、今後も保育所・幼稚園と小学校の連携を密にして、二戸独自の取り組みを期待したい。
- ◆ 生徒数の減少に伴い、高校再編等について今後予想されるが、二戸市としてのビジョンを示して、関係機関に働きかけることが大切と思われる。
- ◆ 幼・保・小連携は、とても大事なことと思う。情報交換等でさらなる強化をしてほしい。

(様式1)

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート（一次）

事業番号	2		評価者	担当課等	教育企画課				
事業名称	学校教育の充実								
項目名称	(5) 教育環境の整備・充実―①								
① 事務事業概要	実施根拠法令		学校教育法 学校図書館法						
	実施方法		☒ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 補助金交付 ☐ その他（ ）						
	事業費内訳		☐ 国庫補助 ☐ 県単 ☒ 一般財源 ☒ その他（ 交付金 ）						
	対象（～に対して）		児童 生徒 教職員						
	目的（目指すべき姿）		子どもたちの学ぶ意欲や豊かな人間性を育むため、学校図書館の充実に努める。						
	事業内容 (平成23年度)		・ 学校用図書の充実						
② 事業実績・効果	区 分			単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	事業の実績	1	学校図書標準充足率 (小学校)	%	99.8	101.5	105.2	104.3	103.1
		2	学校図書標準充足率 (中学校)	%	116.7	98.6	90.2	96.3	99.8
		3							
		4							
	事業効果	1							
③ 事業費	区 分			単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	決 算 額			千円	2,716	2,734	2,770	2,513	7,195
	年度の歳出（節別内訳）図書購入費			小学校費	1,329	1,574	1,428	1,435	4,024
				中学校費	1,387	1,160	1,342	1,078	3,171
④ 事業評価	担当課による一次評価 (内部評価)	【必要性】 児童生徒の読書離れが指摘されている今日、学校図書館のもつ役割はますます大きくなっており、学校図書館の環境整備が必要である。							
		【有効性】 適正な廃棄・補充を行うことにより、児童生徒の利用しやすい学校図書館の整備が図られる。							
		【効率性】 平成23年度は国の交付金を利用し、様々な児童生徒のニーズに応える読み物、教科等の学習に利用できる図書資料等、学校図書館の整備が図られた。							
		【公平性】 学校図書館の図書標準の達成のため、図書充足率等を見ながら整備を図っている。							

2 外部評価（二次評価／検証委員の意見・提言等）

Ⅱ 二戸市教育振興基本計画に基づく平成23年度「基本方針（目指す姿）を実現するための施策の方向」の取組実績

2 学校教育の充実 ～子どもたちが自分の力でこれからの時代を切り開くために～

- (1) 自立して生きる力を育む教育の推進
- (2) 特別支援教育の推進
- (3) 健康・安全教育の推進
- (4) 幼児教育・高等学校教育の充実
- (5) 教育環境の整備・充実

2－（5）教育環境の整備・充実－①

- ◆ 平成23年度には、国の交付金が採択されたので、予算が大幅について大変喜ばしいことでした。これによって充足率の低下を恐れて廃棄したい本を廃棄できずにきた学校もあったかもしれませんが、「適正な廃棄・補充」を行うことができたのではないのでしょうか。効率よく学校用図書の更新を図っていくために、次年度も国の交付金を受けられるよう期待します。
- ◆ 朝読書など、一斉読書の時間を設定する学校が多くなっていると思われます。図書館の充実には予算が必要かと思います。
- ◆ 学校図書館の実務的な整備、児童生徒の図書に親しむ環境作りには、担当教師の力量による部分が大きい。担当教員の研修を毎年計画的に継続する必要があると思われる。学校図書館が学校の文化的なセンターになる環境の整備を期待したい。
- ◆ 学校用図書の充実とともに、子供たちの本に親しむ姿を期待している。

(様式1)

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート（一次）

事業番号	2		評価者	担当課等	教育施設整備課			
事業名称	学校教育の充実							
項目名称	(5) 教育環境の整備・充実一②							

① 事務事業概要	実施根拠法令		学校教育法					
	実施方法		☒ 直接実施 ☒ 業務委託 ☐ 補助金交付 ☐ その他（ ）					
	事業費内訳		☐ 国庫補助 ☐ 県単 ☒ 一般財源 ☒ その他（ 起債 ）					
	対象（～に対して）		児童 生徒 教職員					
	目的（目指すべき姿）		安心安全に学校生活をおくるための潤いのある教育環境の整備					
	事業内容 (平成23年度)		1 福岡中学校建設事業（基本設計、実施設計、埋蔵文化財調査） 2 御返地小学校ろ過機取替工事					

② 事業実績・効果	区 分			単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	事業の実績	1	敷地調査・用地測量	式				1	
		2	基本設計業務	式				1	1
		3	実施設計業務	式					1
		4	埋蔵文化財調査	式					1
		5	ろ過機取替	式					1
	事業の効果	1	基本設計	式				1	1
		2	実施設計	式					1
		3	埋蔵文化財調査	式					1
		4	ろ過機取替	基					1

③ 事業費	区 分			単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	決 算 額			千円				10,732	99,568
	年度の歳出（節別内訳）			千円				委託料 10,732	旅費 14 需用費 258 役務費 73 委託料 93,503 借上料 164 工事請負費 5,556

④ 事業評価	担当課による一次評価 (内部評価)	【必要性】 1 福岡中学校は、施設の老朽化が著しいとともに、現在の耐震基準から判断すると十分な耐震性を有していない。さらに、機能性においても様々な課題を抱えていることから改築による改善を図る必要がある。 2 教育施設設備の更新については、老朽化等により発生する学校施設設備の機能低下に対する施設・設備の改修を計画的に行うことにより、教育環境を維持させる必要がある。 【有効性】 1 福岡中学校を改築することにより、教育環境及び施設の安全性が改善され、安全で快適な学校づくりに資する。また、非常災害時には地域住民の避難場所としての役割を果たすことができる。 2 プールろ過機の更新については、水泳学習を円滑に実施できるとともに、設備の長寿命化が図られる。 【効率性】 1 学校建設では、敷地の形状を踏まえた配置計画にすることにより、効率的な敷地の活用を図る。 2 ろ過機の更新については、設備の設置年度や水質検査の結果などを比較検討し、対象施設を選定することにより無駄のない財源配分とした。 【公平性】 1 老朽化した学校施設を計画的に整備することにより、教育環境水準の均衡を図る。 2 改築等の新規事業にのみ予算の重点配分を行うことなく、既存施設・設備についても計画的に更新を行うことにより、各学校の教育環境水準の均衡が図られる。 【その他】 1 福岡中学校建設事業に伴う基本設計を行うにあたり、教職員による建設検討チームを立ち上げ、できるだけ現場の意見要望を取り入れるよう努めた。また、生徒による「こんな福岡中学校になってほしい」というアンケート内容も参考にしながら設計を行った。 2 生徒会本部の子どもたちあるいはPTA・同窓会との意見交換、さらに設計概要の広報への掲載のほか、住民説明会・出前講座の実施など、「市民と協働で」という観点に立って事業を進めることができた。

2 外部評価（二次評価／検証委員の意見・提言等）

Ⅱ 二戸市教育振興基本計画に基づく平成23年度「基本方針（目指す姿）を実現するための施策の方向」の取組実績

2 学校教育の充実 ～子どもたちが自分の力でこれからの時代を切り開くために～

- （1）自立して生きる力を育む教育の推進
- （2）特別支援教育の推進
- （3）健康・安全教育の推進
- （4）幼児教育・高等学校教育の充実
- （5）教育環境の整備・充実

2－（5）教育環境の整備・充実－②

- ◆ 安全で快適な学校生活が過ごせるように、様々な要望も取り入れた改築にしてほしい。
- ◆ 福岡中学校の校舎等の建築について、狭い敷地など様々な問題のある中、多くの意見を取り入れ、それらのことに配慮して進められているように思える。二戸市の6割以上の生徒が登校する学校であり、生徒が誇りを持って生活できる最高の施設を期待している。
学校のライフラインの整備については、児童生徒の安全・健康に係わることであり、最優先で進めてほしい。また、設備等を設置して終わりではなく、定期的な保守点検を励行する必要がある。
- ◆ 福中の建設については、完成に期待している。

(様式 1)

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート（一次）

事業番号	3			評価者	担当課等	生涯学習課
事業名称	社会教育の充実					
項目名称	(1) 教育振興運動を基盤とした教育力の向上①					

① 事務事業概要	実施根拠法令	社会教育法第5条 教育基本法第13条 二戸市社会教育団体補助交付要綱 二戸市社会教育指導員の設置等に関する規則						
	実施方法	■直接実施 ■業務委託 ■補助金交付 □その他（ ）						
	事業費内訳	■国庫補助 □県単 ■一般財源 ■その他（地域づくり人づくり基金）						
	対象（～に対して）	小中学生及びその家庭 小中学生とその保護者 市社会教育団体						
	目的（目指すべき姿）	学校、家庭、地域住民及び行政等の関係者が、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚しながら連携・協力を努め、自主的で創造性に富む心豊かな人間を育成する。また、生きていくために学ぶべき課題をテーマにした講座の実施など、将来の地域を担う子どもたちがたくましく心豊かに育つような体験・交流の機会を提供する。						
	事業内容 (平成23年度)	・教育振興運動の推進（二戸市教育振興運動推進協議会への委託：集約集会の開催、「家庭教育の手引き」改訂版の発行等） ・体験的・交流活動の提供（放課後子ども教室、槻陰舎きぼう塾） ・社会教育団体の支援（6団体への補助金交付） ・専門職員（社会教育指導員）の配置						

② 事業実績・効果	区 分			単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	事業の実績	1	家庭教育学級開催数	回	65	56	48	48	48
		2	集約集会開催数	回	1	1	1	1	1
		3	子ども教室実施箇所数	カ所	5	5	6	6	6
		4	槻陰舎きぼう塾年間開催数	回					5
		5	補助金交付団体数	団体	7	7	6	6	6
	事業効果	1	集約集会参加者数	人	119	121	118	121	109
		2	子ども教室利用者数(延べ)	人	7,092	7,925	7,692	8,174	11,283
		3	槻陰舎きぼう塾申込組数	組					23

③ 事業費	区 分			単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	決 算 額			千円	6,552	7,819	6,963	6,786	7,630
	年度の歳出（節別内訳）			千円	報酬 1,411 共済費 346 旅費 90 委託料 4,313 補助金 392	報酬 1,436 共済費 350 旅費 51 委託料 5,590 補助金 392	報酬 1,439 共済費 356 報償費 3,623 旅費 90 需用費 70 役務費 146 委託料 897 補助金 342	報酬 1,440 共済費 381 報償費 4,136 旅費 90 需用費 76 役務費 26 委託料 295 補助金 342	報酬 1,237 共済費 349 報償費 4,516 旅費 76 需用費 497 役務費 99 委託料 514 補助金 342

④ 事業評価	担当課による一次評価（内部評価）	【必要性】	子どもの健全育成を図るため、学校・家庭・地域・行政が連携した教育振興運動の更なる推進に努め、地域全体で子どもを育む環境を構築する必要がある。また、自らが生まれ育った郷土に誇りと愛着を持ち、地域を担う人材を育成するためにも、子どもたちが地域の歴史等について学び将来の進路を考える機会を設けることで、意識の醸成を図る必要がある。
		【有効性】	子ども教室については、利用者の増加に伴い設備や人員などの面での対応が困難になってきている教室もある。その一方で、利用者数の減少が目立つ教室もあるため、適切な場所の確保や運営状況の見直しを進めていく必要がある。事業実施初年度となる槻陰舎きぼう塾は、再募集をかけるなど人集めに苦慮したが、参加した塾生からは好評をいただいた。社会教育指導員の配置に関しては、二戸市教育振興運動推進協議会やユネスコ運動、二戸地区視聴覚教育協議会等の業務について、指導員の見識を活かした事業運営を図ることができた。
		【効率性】	子ども教室は、学校や市の施設を利用している。また、安全管理員は地域住民や保護者の方に有償ボランティアとしてご協力いただいております。効率的な運営に努めている。社会教育指導員は様々な研修機会に積極的に参加し、その資質向上に努めている。
		【公平性】	槻陰舎きぼう塾は、学校ごとの塾生申込者や各回ごとの参加者の人数に偏りがみられたことから、今後はより魅力のある講座づくりに努めるとともに、学校とも連携を深め、気軽に参加しやすい環境づくりに努めていきたい。

2 外部評価（二次評価／検証委員の意見・提言等）

Ⅱ 二戸市教育振興基本計画に基づく平成23年度「基本方針（目指す姿）を実現するための施策の方向」の取組実績

3 社会教育の充実 ～社会全体で教育力向上のために～

- (1) 教育振興運動を基盤とした教育力の向上
- (2) 社会教育施設の環境整備

3－（1）教育振興運動を基盤とした教育力の向上－①

◆ 点検・評価分析シートについて

「基本計画」の体系図に合わせて事務事業をまとめ直したためと思うが、記載内容に混乱が見受けられます。全体として整合性の取れたものに手直したほうがいいと思います。

◆ 事業評価で、他の事業の内容についての記述があってもいいのではないのでしょうか。

◆ 教育振興運動がマンネリ化しないように、運動として今までの取り組みを大切にすると共に、新しい提案がなされなければならないものと捉えて、推進を図ってほしい。

槻陰舎さぼろ塾など、児童・生徒の自発的な意欲を育てる市独自の新しい取り組みに期待をしている。

(様式1)

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート（一次）

事業番号		3		評価者	担当課等	市立公民館			
事業名称		社会教育の充実							
項目名称		(1) 教育振興運動を基盤とした教育力の向上ー②							
① 事務事業概要	実施根拠法令		社会教育法						
	実施方法		☒ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 補助金交付 ☐ その他 ()						
	事業費内訳		☐ 国庫補助 ☐ 県単 ☒ 一般財源 ☐ その他 ()						
	対象(～に対して)		市民全般						
	目的(目指すべき姿)		生涯の各時期に対応する学習機会を充実し、住民の教養の向上、生活文化の振興、健康の増進等に寄与する。						
	事業内容 (平成23年度)		青少年教育、成人教育、女性教育、高齢者教育、芸術文化などに関する各種講座の実施。						
② 事業実績・効果	区 分			単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	事業の実績	1	講座の実施数	回	266	231	230	243	230
		2	現代的課題講座数	回					10
	事業効果	1	講座参加数	人	延 6,205	延 6,463	延 5,750	延 5,771	延 5,230
		2	講座からサークルへの立ち上げ	団体	1	0	1	1	1
③ 事業費	区 分			単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	決 算 額			千円	1,377	1,341	1,511	1,652	1,551
	年度の歳出(節別内訳)			千円	報償費 1,340 使用料 37	報償費 1,315 使用料 26	報償費 1,228 旅費 70 需用費 208 使用料 5	報償費 1,002 旅費 81 需用費 235 役務費 309 使用料 25	報償費 943 旅費 73 需用費 216 役務費 314 使用料 5
④ 事業評価	担当課による一次評価(内部評価)	[必要性] - 市民の学習要求は多様化してきており、市民の教養の向上、健康の増進、生きがいのある人生を送るため、生涯にわたる各種事業を実施する必要がある。 [有効性] - 東日本大震災の影響で研修の機会は少なかったが、県生涯学習推進研究大会に参加し、他の市町村、公民館等現場での実情や成果を学び、参考にした。職員の一層の専門性が望まれる。 - 各種講座の開催により、知識の習得、趣味、健康の増進が図られ、講座修了生の自主サークルへの移行も図られ、楽しく参加者相互の交流できる社会教育の場として有効である。講座数は震災の影響や天候不順等により目標数値250には及ばなかったが、健康関係の講座が増え、現代的課題講座数は目標数値7を上回った。 [効率性] - 出前講座、地域の人材、団体等を活用し、経費節減を図り効率性が高まった。地域の隠れた人材の掘り起こしに工夫が必要である。 - 市民の学習要望を的確に把握し、少ない予算で最大の効果を出す一層の努力が必要である。 [公平性] - 公民館運営審議会で決定された重点目標・重点施策は、公民館事業に反映され、広報、チラシ、FMラジオ等で、講座開催を市民に周知し、公募により実施している。事業募集、経過の市民への周知は、公民館だよりの発行等一層の努力が必要である。 - 講座参加者については、予算の範囲内においてできるかぎり送迎バスを運行し、遠方者に受講の機会を提供している。							

2 外部評価（二次評価／検証委員の意見・提言等）

Ⅱ 二戸市教育振興基本計画に基づく平成23年度「基本方針（目指す姿）を実現するための施策の方向」の取組実績

3－社会教育の充実 ～社会全体で教育力向上のために～

- （1） 教育振興運動を基盤とした教育力の向上
- （2） 社会教育施設の環境整備

3－（1）教育振興運動を基盤とした教育力の向上－②

- ◆ 平成23年度において、どのように事業実施に努めたか、工夫したか等々、様子をうかがい知ることができる評価・分析となっており大変良いと思いました。
- ◆ 送迎バスの運行は、講座参加者にとって参加意識の向上に効果があると考えます。できる限り続けてほしい。
- ◆ 多くの講座が開設され、市民の多様なニーズに応えようとしている様子がうかがえる。今後も少人数の参加者の講座も大切に、サークル等の立ち上げの援助を続けてほしい。
講座を開設して、市民の学習機会を充実することは教育振興運動より、生涯学習の粋と押さえたほうが、市民の意識としてもよいのではと感じた。
- ◆ 公民館活動に参加しております。バスの運行等をしていただいております。

(様式1)

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート

事業番号	3			評 価 者	担当課等	図書館
事業名称	社会教育の充実					
項目名称	(1) 教育振興運動を基盤とした教育力の向上ー③					

事務事業概要	実施根拠法令	図書館法第3条						
	実施方法	☒ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 補助金交付 ☐ その他 ()						
	事業費内訳	☐ 国庫補助 ☐ 県単 ☒ 一般財源 ☐ その他 ()						
	対象 (～に対して)	市民						
	目的 (目指すべき姿)	図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して市民の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする。						
	事業内容 (平成23年度)	・図書館資料の貸出 ・移動図書館車の巡回 ・各種講座の開催 ・ブックスタートの実施						

②事業実績・効果	区 分			単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	事業の実績	1	開館日数	日	274	274	281	283	245
		2	移動図書館車の運行	日	120	128	132	120	133
		3	各種講座等の開催	回	23	20	22	19	23
		4	ブックスタート事業	回	12	12	12	12	12
		5	読書感想文コンクール	回	1	1	1	1	1
	事業効果	1	貸出人数(移動車含)	人	16,825	18,955	19,655	20,421	19,731
		2	貸出冊数(移動車含)	冊	46,860	52,963	59,385	60,058	65,909
		3	新規登録者数(移動車含)	人	1,659	1,067	787	685	617

③事業費	区 分			単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	決 算 額			千円	1,114	892	1,069	993	1,022
	年度の歳出 (節別内訳)			千円	報償費 364 旅費 5 需用費 745	報償費 282 旅費 5 需用費 605	報償費 252 旅費 7 需用費 810	報償費 227 旅費 7 需用費 759	報償費 180 旅費 5 需用費 751 役務費 86

④事業評価	担当課による一次評価 (内部評価)	[必要性] 市民の課題解決や暮らしに役立つ図書資料や情報を提供し、心豊かでたくましい人材を育成するために必要である。 [有効性] 貸出冊数は、二戸市教育振興基本計画に掲げた数値目標である平成23年度 65,000 冊を達成した。施設の改修のための休館に向けて、利用者一人の貸出冊数を制限せずに貸出しをしたところ、利用者から好評で、貸出冊数が増加した。しかし、冊数の制限がなくなったため、一人の利用者カードで家族分をまとめて貸出しするケースがあり、貸出人数は伸びなかった。 郷土史講座や日本古典文学講座、手づくり絵本教室等を開催し、市民の幅広い学習欲求に応えることができた。手づくり絵本教室においては、岩手県読書運動推進協議会主催の「手づくり絵本」で2名が最優秀賞を受賞した。 [効率性] 市民の多様なニーズに応える図書サービスを充実させるため、リクエストによる図書購入や県内図書館との相互貸借などにより、効率的な運営に努めた。 [公平性] 幼児期から高齢期まで、それぞれのニーズに応じた資料を提供することに努めた。							
-------	-------------------	--	--	--	--	--	--	--	--

2 外部評価（二次評価／検証委員の意見・提言等）

Ⅱ 二戸市教育振興基本計画に基づく平成23年度「基本方針（目指す姿）を実現するための施策の方向」の取組実績

3－社会教育の充実 ～社会全体で教育力向上のために～

- （1） 教育振興運動を基盤とした教育力の向上
- （2） 社会教育施設の環境整備

3－（1）社会教育施設の環境整備－③

- ◆ 前年度と比較して、貸出人数が減少し、貸出冊数が増加していることについて、その要因分析を行い、図書館運営に生かすようにしてほしい。
- ◆ 市の図書館には、単に本の貸し出しをする機関ではなく、市の文化を集約し発信するところであり、そのような気概を大切にした運営を今後も期待したい。

(様式 1)

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート（一次）

事業番号	3			評価者	担当課等	市立公民館			
事業名称	社会教育の充実								
項目名称	(2) 社会教育施設の環境整備－①								
① 事務事業概要	実施根拠法令		社会教育法第 20 条から第 42 条						
	実施方法		☒ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 補助金交付 ☐ その他 ()						
	事業費内訳		☐ 国庫補助 ☐ 県単 ☒ 一般財源 ☐ その他 ()						
	対象 (～ に対して)		市民全般						
	目的 (目指すべき姿)		施設の適正な機能を維持する。						
	事業内容 (平成 23 年度)		施設修繕・機器修繕や更新。中央 (修繕 148、工事請負 1,365、備品購入 1,848) 石切所 (修繕 126、備品購入 476) 金田一 (修繕 1,011) カシオペア (修繕 300、委託料 729、備品購入 240)						
② 事業実績・効果	区 分		単位	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	
	事業の実績	1	修繕件数	件			16	25	23
		2	委託料	件					1
		3	工事請負費	件	1	1	3	1	1
		4	備品購入費	件			8		7
	事業効果	1	利用者数全館		72,830	64,435	67,488	67,248	66,538
③ 事業費	区 分		単位	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	
	決 算 額		千円	10,603	9,992	17,862	4,660	6,243	
	年度の歳出 (節別内訳)		千円	工事請負費 10,603 (中央トイレ改修)	工事請負費 9,992 (大嶺分館改修)	修繕料 1,158 工事請負費 14,360 備品購入費 2,344	修繕料 1,293 工事請負費 3,367	修繕料 1,585 委託料 729 工事請負費 1,365 備品購入費 2,564	
④ 事業評価	担当課による一次評価 (内部評価)	【必要性】 施設の適正な機能、安全を維持するため、修繕や機器の更新を行う必要がある。							
		【有効性】 施設の修繕 (金田一置換え・カシオペア大嶺分館屋根塗装委託等)、工事 (中央壁面亀裂補修)、備品購入 (中央焼き窯・石切所ストーブ等) により公民館の利便性、分館管理面の安全性が図られた。							
		【効率性】 経費の節減に努めるとともに施設、備品を補修更新しながら使用期間を延ばし、効率的な執行を図っている。							
		【公平性】 施設利用者や地域公民館連絡協議会での必要性、要望等調査し、利用しやすい公民館づくりに努めている。							

2 外部評価（二次評価／検証委員の意見・提言等）

Ⅱ 二戸市教育振興基本計画に基づく平成23年度「基本方針（目指す姿）を実現するための施策の方向」の取組実績

3－社会教育の充実 ～社会全体で教育力向上のために～

- (1) 教育振興運動を基盤とした教育力の向上
- (2) 社会教育施設の環境整備

3－(2) 社会教育施設の環境整備－①

- ◆ 各公民館ごとに整備内容が推定できるように例示されたりしていて、簡潔でわかりやすい評価になっており、良いと思います。
- ◆ 「基本計画」に示されている「長嶺地区文教施設整備基本構想」の策定は、大きくて夢のある事業になると思いますが、何年度から着手するのでしょうか。
- ◆ 公民館の施設、設備の充実は、各種の活動の活発化に大きく影響してくると思う。利用者の要望を生かすように、さらに努力してほしい。
- ◆ 公民館等、老朽化した施設が多いと思うが、利用者が安全で快適な活動のできるような環境を保持してほしい。

(様式1)

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート

事業番号	3			評 価 者	担当課等	図書館
事業名称	社会教育の充実					
項目名称	(2) 社会教育施設の環境整備―②					

① 事務事業概要	実施根拠法令	図書館法第3条						
	実施方法	☒ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 補助金交付 ☐ その他 ()						
	事業費内訳	☒ 国庫補助 ☐ 県単 ☒ 一般財源 ☐ その他 ()						
	対象 (～に対して)	市民						
	目的 (目指すべき姿)	資料の充実、施設・設備の整備に努め、地域における学習の拠点としての機能を果たす。						
	事業内容 (平成23年度)	・蔵書の充実 ・図書館システムの活用 ・冷温水発生装置の更新 ・図書館改修工事 ・公衆無線LAN導入等						

② 事業実績・効果	区 分			単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	事業の実績	1	図書購入(寄贈含む)	件	2,734	3,564	3,125	3,042	4,488
		2	書架等備品購入	件					25
		3	冷温水発生装置改修	式					1
		4	図書館改修工事	式					1
		5	公衆無線LAN導入委託	式					1
		6	書架改造等委託等	式					1
	事業効果	1	蔵書冊数	冊	68,624	72,188	74,301	75,984	79,806

③ 事業費	区 分			単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	決 算 額			千円	17,363	9,113	10,884	8,042	49,615
	年度の歳出 (節別内訳)			千円	共済費 525 賃金 2,087 需用費 1,103 役務費 208 委託料 773 使用料 281	役務費 280 委託料 1,856 使用料 84 工事請負費 799 備品購入費 6,094	役務費 283 委託料 1,739 使用料 84 工事請負費 4,778 備品購入費 4,000	役務費 289 委託料 1,602 使用料 84 工事請負費 2,068 備品購入費 3,999	役務費 278 委託料 3,233 使用料 84 工事請負費 26,488 原材料費 61 備品購入費 19,471

④ 事業評価	担当課による一次評価 (内部評価)	【必要性】 図書館は、子どもから高齢者まで、誰もが気軽に利用できる生涯学習の拠点であり、生活の質を豊かにするかけがえのない施設であることから、今後も計画的に資料や施設設備の整備を進める必要がある。 【有効性】 蔵書冊数は、二戸市教育振興基本計画の数値目標である平成23年度78,000冊を上回り、蔵書の適正な更新に努めている。施設の改修、備品の購入等の整備を行ったことにより、快適に利用できる環境が整った。 【効率性】 市民の多様化・高度化するニーズに対応し、資料の充実、施設の整備を行っていくことにより、サービスを効率的に行うことができた。 【公平性】 市民誰もが気軽に来館でき、ゆったりとした時間を過ごす環境を提供することができた。						

2 外部評価（二次評価／検証委員の意見・提言等）

Ⅱ 二戸市教育振興基本計画に基づく平成23年度「基本方針（目指す姿）を実現するための施策の方向」の取組実績

3－社会教育の充実 ～社会全体で教育力向上のために～

- （1） 教育振興運動を基盤とした教育力の向上
- （2） 社会教育施設の環境整備

3－（2）社会教育施設の環境整備－②

- ◆ 簡潔で適確な評価となっており良いと思いました。
- ◆ 施設の改修、備品の整備が進み、環境が備わったことから、より多くの市民が利用できる働きかけを積極的に行ってほしい。
- ◆ 情報化社会に対応できる施設・設備の充実と活用の援助を期待したい。

(様式 1)

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート（一次）

事業番号	4			評価者	担当課等	埋蔵文化財センター				
事業名称	芸術文化の振興									
項目名称	(1) 芸術文化の振興―①									
① 事務事業概要	実施根拠法令									
	実施方法		☐ 直接実施 ☐ 業務委託 ☒ 補助金交付 ☐ その他（ ）							
	事業費内訳		☐ 国庫補助 ☐ 県単 ☐ 一般財源 ☒ その他（基金繰入金）							
	対象（～に対して）		市民							
	目的（目指すべき姿）		郷土芸能団体の技術的な向上と継承、活動の活性化を図るため、市指定無形民俗文化財（民俗芸能）団体に対し支援施策を講じることにより、二戸市の特性を生かした個性的な地域文化を創造する。							
	事業内容 (平成23年度)		市指定無形民俗文化財（民俗芸能）団体17団体のうち、活動している13団体に対し、活動支援のため、補助金を交付した。(50,000円×13団体) 二戸市郷土芸能祭開催補助金を二戸市郷土芸能保存団体連絡協議会へ交付した。(250,000円)							
② 事業実績・効果	区 分			単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
	事業の実績	1	補助金交付団体数	団体	13	13	13	13	13	
		2								
		3								
		4								
事業効果	1	市郷土芸能祭観客者数	人	400	400	400	400	400		
③ 事業費	区 分			単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
	決 算 額			千円	900	900	900	900	900	
	年度の歳出（節別内訳）			千円	補助金 900	補助金 900	補助金 900	補助金 900	補助金 900	
④ 事業評価	担当課による一次評価（内部評価）	【必要性】 後継者不足等により活動の継続が危ぶまれている郷土芸能団体が出てきており、支援施策とともに後継者確保についての取り組みが必要となっている。 【有効性】 郷土芸能団体の後継者育成の練習や発表の場の確保などに役立っている。 【効率性】 二戸市郷土芸能祭の開催や三圏域連携懇談会主催事業の開催などのため、二戸市郷土芸能保存団体連絡協議会の事務局を市職員が行うことにより、加盟団体や三市などの連絡調整が効率的に行われた。 【公平性】 市内全域の郷土芸能団体を対象としており、その活動成果を毎年「二戸市郷土芸能祭」で発表することにより、市民への周知を図っている。 平成23年度は、二戸市郷土芸能祭に三圏域（二戸市、久慈市、八戸市）郷土芸能交流祭を兼ねて実施し、久慈市、八戸市から各2団体ゲスト出演いただいて開催したが、観客数には反映されなかった。観客者数の増加につながる周知方法等を検討する必要がある。								

2 外部評価（二次評価／検証委員の意見・提言等）

Ⅱ 二戸市教育振興基本計画に基づく平成23年度「基本方針（目指す姿）を実現するための施策の方向」の取組実績

4－芸術文化の振興 ～潤いのある豊かな生活のために～

- (1) 芸術文化の振興
- (2) 文化財の保護・保存と活用
- (3) 郷土への誇りと愛着を深める地域文化の継承

4－（1）芸術文化の振興－①

- ◆ この評価分析シートは、郷土芸能保存団体の活動を支援する事業に関するものと思われるが、次の点に疑問を持った。
- ◆ 「基本計画」に郷土芸能祭の観客者数の数値目標が示されているので、それとの対比で23年度の観客者数について評価と分析が必要と思います。
- ◆ 事業効果、市郷土芸能祭観客者数が平成19年度から5年間全て400人となっているが、正しい数なのでしょうか。
- ◆ 世の中の変化により、郷土芸能の継承に大きく関わっていた地区の人々の繋がりが希薄になっていることや、小学校の統廃合等も加わり、活動の継続が危ぶまれる団体が出てきている状況は理解できる。そのような中で、「二戸市郷土芸能祭」等の取り組みの位置づけが大きくなるように感じる。

(様式 1)

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート（一次）

事業番号	4		評価者	担当課等	生涯学習課				
事業名称	芸術文化の振興								
項目名称	(1) 芸術文化の振興－②								
① 事業概要	実施根拠法令		社会教育法第5条						
	実施方法		☒ 直接実施 ☒ 業務委託 ☒ 補助金交付 ☐ その他（ ）						
	事業費内訳		☐ 国庫補助 ☐ 県単 ☒ 一般財源 ☒ その他（地域づくり人づくり基金）						
	対象（～に対して）		市民・市芸術文化団体・文化施設						
	目的（目指すべき姿）		日々の暮らしの中で優れた芸術文化情報にふれ、鑑賞できる機会が広がっている。また、余暇時間の増大に伴って、市民の芸術文化に寄せる関心も高まり、主婦や高齢者を中心に各種文化サークルの活動が活発になっている。 こうしたなか、市民の芸術文化活動のさらなる奨励を図るため、公民館講座などによる創作・学習機会の提供に努めるとともに、市文化祭を通して発表機会・鑑賞機会の拡充を目指す。						
	事業内容 (平成23年度)		芸術文化団体への育成補助、文化祭の実施、自主事業の実施、文化会館リフレッシュ事業の実施						
② 事業実績・効果	区 分			単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	事業の実績	1	補助金交付団体数	団体					4
		2	文化祭参加団体数	団体					42
		3	自主事業数	回					13
		4	工事名						調光装置等 改修工事
	事業効果	1	文化祭入場者数	人					5,467
2		文化会館利用者数	人					59,269	
③ 事業費	区 分			単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	決 算 額			千円					95,078
	年度の歳出（節別内訳）			千円					委託料 5,648 工事請負費 89,250 補助金 180
④ 事業評価	担当課による一次評価（内部評価）	【必要性】 芸術文化団体の組織強化と、市民が主体的に活動に参加し、その成果を発表できる環境づくりが求められている。また、心豊かで潤いと安らぎのある市民生活を創造するためには、日常的に芸術文化に触れる機会や優れた鑑賞機会の提供・支援に努めることが求められている。							
		【有効性】 市民文化会館自主事業の開催などにより、芸術鑑賞機会の充実が期待される。また、文化祭の実施により、市民の自主的な文化活動が期待される。なお、文化祭入場者数は数値目標に届かなかったが、良い作品が多く、来場者に概ね好評であった。							
		【効率性】 平成23年度から5年間、（株）東北共立が文化会館の指定管理者となっている。適正かつ円滑な管理運営と、効率的で優れた芸術鑑賞機会の提供に努めている。							
		【公平性】 子どもから大人まで幅広く、芸術鑑賞機会の提供に努めている。また、芸術文化の環境整備に努めている。							

2 外部評価（二次評価／検証委員の意見・提言等）

Ⅱ 二戸市教育振興基本計画に基づく平成23年度「基本方針（目指す姿）を実現するための施策の方向」の取組実績

4－芸術文化の振興 ～潤いのある豊かな生活のために～

- (1) 芸術文化の振興
- (2) 文化財の保護・保存と活用
- (3) 郷土への誇りと愛着を深める地域文化の継承

4－（1）芸術文化の振興－②

- ◆ どの施設の事業の入場者数や参加者数も概数を記していると思います。ただし、概数をどのようにして算出したのかと問われた場合のため、例えば入場券の販売数であるとか、パンフレットの配布残から逆算したものというように算出方法をきちんと決めておけば良いと思います。数値目標を示しておきながら、その目標数値や実績数値に疑いを持たれるようなことは書かないほうが良いと思います。
- ◆ このシートの担当課等の欄には「生涯学習課」としか記されていませんが、ここには「市立公民館」も書き入れるべきだと思います。そして文化祭については、中央公民館の職員に評価分析をしてもらい、それを書き加えて提出してほしいと思います。
- ◆ 市民文化会館の指定管理者のメリット・デメリット等の評価が必要に思われる。様々な文化活動におけるシビックセンター等の活用と、文化活動における協力のあり方について検討が必要と感じる。
- ◆ 文化祭に毎年参加している。

(様式 1)

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート（一次）

事業番号	4			評価者	担当課等	埋蔵文化財センター			
事業名称	芸術文化の振興								
項目名称	(2) 文化財の保護・保存と活用－①								
① 事務事業概要	実施根拠法令		文化財保護法						
	実施方法		☒ 直接実施 ☐ 業務委託 ☒ 補助金交付 ☐ その他（ ）						
	事業費内訳		☐ 国庫補助 ☐ 県単 ☒ 一般財源 ☐ その他（ ）						
	対象（～に対して）		市民						
	目的（目指すべき姿）		重要文化財天台寺の本堂・仁王門の解体修理を推進する。						
	事業内容 (平成23年度)		・文化財建造物保存修理関係者等連絡協議会への参加（情報収集） ・関係機関（国及びその外郭団体、県、寺等）との協議、打合せの推進 ・専門研修（国立文化財研究所寺院調査研修）への職員派遣及び類似事業（伊勢原市宝城坊）の視察						
② 事業実績・効果	区 分			単位	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
	事業の実績	1	協議会へ参加	回					1
		2	関係機関との協議	回					4
		3	専門研修への派遣	回					1
		4							
事業効果	1								
③ 事業費	区 分			単位	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
	決 算 額			千円					225
	年度の歳出（節別内訳）			千円					旅費 225
④ 事業評価	担当課による一次評価（内部評価）	【必要性】 本堂・仁王門は江戸時代前期（約350年前）の建築で、老朽化が著しく危険な状態となっており、早急な修復が必要である。なお、解体修理の実施は平成25年度を予定している。							
		【有効性】 関係機関と協議打合せを重ねることで、解体修理方針等の決定、事業実施に必要な情報共有ができた。また、文化財専門研修への職員派遣によって、担当職員の事業推進に必要な技術向上、文化財建造物保存修理関係者等連絡協議会への参加及び類似事業の視察の結果、修復事業に必要な情報収集及び文化庁などとの連携が密接に図られた。							
		【効率性】 宗教法人天台寺と詳細な協議、打合せを実施し、事業推進に必要な役割を互いに明確にし、効率化を図った。							
		【公平性】 天台寺の重要性や知名度から全市的に本事業実施についての市民の理解が得られると考える。							

2 外部評価（二次評価／検証委員の意見・提言等）

Ⅱ 二戸市教育振興基本計画に基づく平成23年度「基本方針（目指す姿）を実現するための施策の方向」の取組実績

4－芸術文化の振興 ～潤いのある豊かな生活のために～

- （1）芸術文化の振興
- （2）文化財の保護・保存と活用
- （3）郷土への誇りと愛着を深める地域文化の継承

4－（2）文化財の保護・保存と活用－①

- ◆ 文化財の保護・修復には、国の補助が多くあるようであり、市の宝として、今後も積極的に取り組む必要があるように思われる。
- ◆ 重要文化財ですので、保存を大切にしていきたい。

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート（一次）

事業番号	4		評価者	担当課等	埋蔵文化財センター			
事業名称	芸術文化の振興							
項目名称	(2) 文化財の保護・保存と活用一②							

① 事業概要	実施根拠法令	文化財保護法 二戸市文化財保護条例 二戸市文化財保護条例施行規則						
	実施方法	☒ 直接実施 ☒ 業務委託 ☒ 補助金交付 ☐ その他（ ）						
	事業費内訳	☒ 国庫補助 ☒ 県単 ☒ 一般財源 ☒ その他（受託料）						
	対象（～に対して）	市民						
	目的（目指すべき姿）	- 環境整備事業として、調査と修景工事を実施するため史跡公園化の促進を図る。 - 史跡の保存・保護並びに活用のため、学術調査や危険箇所の補強・修景工事などを実施し将来的には史跡公園化を実施する。 - 史跡九戸城跡における史跡指定地買上げ及び史跡整備の完了						
	事業内容 (平成23年度)	- 史跡指定地内の民有地の公有化 - 二ノ丸跡の内容確認調査の実施 - 史跡九戸城跡整備指導委員会の開催 - 九戸城ボランティアガイドの会、九戸城を活かす会への補助金交付						

② 事業実績・効果	区 分		単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
	事業の実績	1	購入面積	㎡	3,545.30	966.96	1,194.29	1,237.09	1,174.00
		2	学術調査	㎡	200	200	200	700	700
		3	整備指導委員会	回	1	1	1	1	1
		4	補助金交付団体数	団体	2	2	2	2	2
	事業効果	1							

③ 事業費	区 分		単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	決 算 額		千円	57,940	31,437	30,869	29,744	20,081
	年度の歳出（節別内訳）		千円	報償 80	報償 25	共済費 18	共済費 23	共済費 45
				共済費 23	共済費 31	賃金 5,913	賃金 7,443	賃金 7,338
				賃金 4,626	賃金 6,754	報償費 80	報償費 80	報償費 80
				報償費 60	報償費 80	旅費 287	旅費 242	旅費 304
				旅費 174	旅費 208	需用費 1,436	需用費 862	需用費 726
				需用費 561	需用費 617	役務費 680	役務費 406	役務費 1,090
				役務費 823	役務費 882	委託料 2,653	委託料 1,235	委託料 2,348
				委託料 1,635	委託料 2,589	使用料及び賃借料 935	使用料及び賃借料 825	使用料及び賃借料 1,307
使用料及び賃借料 972				使用料及び賃借料 1,027	工事費 189	工事費 189	工事費 189	
工事費 189	工事費 189	公有財産 13,896	原材料費 193	原材料費 229				
原材料費 14	原材料費 41	購入費 4,429	公有財産 11,297	備品購入費 430				
公有財産 31,002	公有財産 13,978	補償補填賠償金 4,429	購入費 6,596	公有財産 5,642				
補償補填賠償金 17,344	補償補填賠償金 4,580	負担金、補助及び交付金 353	補償補填賠償金 6,596	購入費 5,642				
負担金、補助及び交付金 437	負担金、補助及び交付金 436		負担金、補助及び交付金 353	負担金、補助及び交付金 353				

④ 事業評価	担当課による一次評価(内部評価)	【必要性】 史跡九戸城跡は天台寺とともに市の文化財、街づくりの中核をなす重要な遺跡であり、その保護保存と活用は必要な主要施策である。
		【有効性】 史跡公有化事業によって前年度との同規模の公有化が実施できた。史跡環境整備事業により地形の修復や発掘調査による内容の確認が進められ、整備指導員会においては第2次整備計画案の作成を提言された。

④ 事業評価	担当課による一次評価(内部評価)	【効率性】 予算規模が縮小しているが、過年度と同等の事業実績を維持している。尚、公有化については、平成22年度は建物補填賠償金が発生しており、平成23年度の取得面積の単価はほぼ前年度と同じである。
		【公平性】 仮整備により広く一般市民に開放しており、活用面での公平性は確保していると考え。

2 外部評価（二次評価／検証委員の意見・提言等）

Ⅱ 二戸市教育振興基本計画に基づく平成23年度「基本方針（目指す姿）を実現するための施策の方向」の取組実績

4－芸術文化の振興 ～潤いのある豊かな生活のために～

- （1）芸術文化の振興
- （2）文化財の保護・保存と活用
- （3）郷土への誇りと愛着を深める地域文化の継承

4－（2）文化財の保護・保存と活用－②

- ◆ 「基本計画」に九戸城跡の年間来訪者数の数値目標と案内者数のそれが示されていますが、これらとの関連で整備事業やボランティアガイドの会等への補助金交付事業を評価する必要があると思います。
- ◆ 二戸の宝として広く市民に親しんでほしい。

(様式1)

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート（一次）

事業番号	4			評価者	担当課等	埋蔵文化財センター				
事業名称	芸術文化の振興									
項目名称	(2) 文化財の保護・保存と活用―③									
① 事務事業概要	実施根拠法令		文化財保護法 二戸市文化財保護条例 二戸市文化財保護条例施行規則							
	実施方法		☒ 直接実施 ☒ 業務委託 ☒ 補助金交付 ☐ その他（ ）							
	事業費内訳		☒ 国庫補助 ☒ 県単 ☒ 一般財源 ☒ その他（受託料）							
	対象（～に対して）		市民							
	目的（目指すべき姿）		・ 市内遺跡から出土した埋蔵文化財の保護活用の推進 ・ 埋蔵文化財包蔵地の保護 ・ 市民の郷土・歴史や文化財に対する関心・理解を深める。							
	事業内容 (平成23年度)		・ 市内遺跡の緊急発掘調査、室内整理作業、報告書の作成 ・ 埋蔵文化財の科学的な保存措置の実施 ・ 体験学習の実施（まが玉づくり、お香づくり、草木染め他、全13種） ・ 土地区画整理事業に先立つ緊急発掘調査の実施 ・ 市内の文化財調査							
② 事業実績・効果	区 分			単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
	事業の実績	1	緊急発掘調査	件	1	0	1	0	1	
		2	体験学習の回数	回	35	43	53	46	54	
		3	発掘調査	件	0	2	1	1	2	
		4	保存処理	個	19	107	213	26	78	
事業効果		1								
③ 事業費	区 分			単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
	決 算 額			千円	30,912	26,110	29,817	34,600	37,122	
	年度の歳出（節別内訳）			千円	共済費 92 賃金 20,153 旅費 319 需用費 2,044 役務費 208 委託料 4,721 使用料及び賃借料 1,955 原材料費 1,420	共済費 81 賃金 17,589 報償費 80 旅費 250 需用費 2,148 役務費 88 委託料 4,590 使用料及び賃借料 851 原材料費 431	共済費 62 賃金 20,301 報償費 130 旅費 443 需用費 1,891 役務費 131 委託料 5,072 使用料及び賃借料 774 原材料費 1,013	共済費 75 賃金 24,017 報酬 50 報償費 60 旅費 303 需用費 2,247 役務費 278 委託料 3,834 使用料及び賃借料 2,802 原材料費 161 負担金、補助金及び交付金 774	共済費 67 賃金 21,490 報酬 70 報償費 120 旅費 367 需用費 4,354 役務費 684 委託料 3,713 使用料及び賃借料 5,328 原材料費 59 負担金、補助金及び交付金 770	
④ 事業評価	担当課による一次評価（内部評価）	【必要性】 郷土に誇りを持つ人づくり、歴史と伝統の薫る街づくりを推進するためには、二戸市固有の有形、無形の文化財の保護と活用は不可欠である。 【有効性】 埋蔵文化財に関しては、発掘調査の実施、調査報告会の開催、発掘調査報告書の刊行、体験学習の実施を通じて、保護活動を有効に図れた。また、有形無形の文化財に関しては、文化財調査委員会議の開催、文化財調査を実施することで指定候補物件の検討を図ることができた。 【効率性】 学識経験者、市民代表からなる文化財調査委員会議を諮問機関として、幅広い指導の下での事業展開により効率性は確保できると考える。 【公平性】 文化財調査委員会議は第三者により組織されており、公平性は保たれている。								

2 外部評価（二次評価／検証委員の意見・提言等）

Ⅱ 二戸市教育振興基本計画に基づく平成23年度「基本方針（目指す姿）を実現するための施策の方向」の取組実績

4－芸術文化の振興 ～潤いのある豊かな生活のために～

- （1）芸術文化の振興
- （2）文化財の保護・保存と活用
- （3）郷土への誇りと愛着を深める地域文化の継承

4－（2）文化財の保護・保存と活用－③

- ◆ 埋蔵文化財の発掘調査についても新しい発見があったとか、無かったとかいうこと、また、時代区分からすると何時代のもだったと推定されるとか、重要度なども混じえて評価分析を加えてみたらどうでしょうか。
- ◆ 諮問機関の文化財調査委員会議の指導の下、事業展開を積極的に進めることが必要である。

(様式 1)

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート（一次）

事業番号	4			評 価 者	担当課等	生涯学習課		
事業名称	芸術文化の振興							
項目名称	(3) 郷土への誇りと愛着を深める地域文化の継承							

① 事務事業概要	実施根拠法令								
	実施方法		☒ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 補助金交付 ☐ その他（ ）						
	事業費内訳		☐ 国庫補助 ☐ 県単 ☒ 一般財源 ☐ その他（ ）						
	対象（～に対して）		市民						
	目的（目指すべき姿）		二戸市固有の地域文化についての調査・保護・保存・活用を通して、市民の郷土への誇り、郷土愛を育む。また、市史の発刊を通して、本市の成り立ちや歴史、先人などの足跡を知り、それぞれの家庭で語り合えるよう、史料叢書の完成を目指す。						
	事業内容 (平成23年度)		史料叢書・郷土教育資料復刻版の発刊						

② 事業実績・効果	区 分			単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	事業の実績	1	史料叢書発刊	集	第11集「二戸郡福岡町の誕生と成長」			第12集「五日町検断所文書・御蔵肝入控帳」	第13集「二戸郡福岡村用係文書」
		2	史料叢書別冊発刊	巻		二戸歴史物語	続二戸歴史物語		
		3	資料復刻集発刊	巻				郷土教育資料復刻集・福岡編Ⅰ	郷土教育資料復刻集・福岡編Ⅱ～Ⅴ
		4							
	事業効果	1	印刷物売捌料	千円	711	918	603	703	276

③ 事業費	区 分			単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	決 算 額			千円	3,815	3,024	4,088	3,753	4,776
	年度の歳出（節別内訳）			千円	報酬 2,424	報酬 1,818	報酬 2,424	報酬 2,424	報酬 2,424
					旅費 26	需用費 1,162	需用費 1,647	需用費 1,312	報償金 594
需用費 1,331					役務費 44	役務費 17	役務費 17	需用費 1,741	
役務費 34								役務費 17	

④ 事業評価	担当課による一次評価 (内部評価)	【必要性】 地域の文化・歴史・民俗風習を知るうえで、郷土の先人たちが築き、残してきた資料は貴重な宝であり、後世に永く伝えることが求められている。							
		【有効性】 「二戸史料叢書」は、市史本編の素材となった史実や記録が正確に載せられ、情報の出所も明示されたデータベースである。これまで収集してきた史料を分析し、現代の言葉に置き換えながら発刊に向けての作業を続けており、次の市史を編さんする際の根拠資料となる史料叢書の発刊が求められている。							
		【効率性】 売捌きが多くはないが、貴重な資料であり、次世代に継承し、活用する意味合いもある。							
		【公平性】 市民は先人の文化を知り、次代を担う子どもたちにもそれを伝え、力を合わせて郷土を護っていくことが大切である。							

2 外部評価（二次評価／検証委員の意見・提言等）

Ⅱ 二戸市教育振興基本計画に基づく平成23年度「基本方針（目指す姿）を実現するための施策の方向」の取組実績

4－芸術文化の振興 ～潤いのある豊かな生活のために～

- (1) 芸術文化の振興
- (2) 文化財の保護・保存と活用
- (3) 郷土への誇りと愛着を深める地域文化の継承

4－(3) 郷土への誇りと愛着を深める地域文化の継承

◆ 市史編さん事業について。

平成23年度において「基本計画」に示している資料叢書第13集の発刊や郷土教育資料復刻版の発刊を着実に成し遂げられました。この事業に携わっておられる二人の先生方の誠実さと努力には頭が下がります。ただ、お二人とも高齢になってきておられ、その体力と健康がどこまで持続するかが心配の種です。この事業がここまで効率よく進展してきたのは、お二人の力によるものです。その力を今後も有効にこの事業へ注いでもらうためには、先生方の労力をできるだけ軽減するような措置が必要だと思います。

この事業の有効性を維持し、効率性を確保するには、人材を適切に配置することが必要です。

◆ 資料館の事業についての評価分析シートが無いようですが、無いままでいいのでしょうか。「基本計画」には来館者数の数値目標を掲げているのですから、それとの関係で運営についての評価分析が可能だと思います。

また、二戸資料館では市史編さん事業の成果と関連付けたような公開講座「新にのへ物語」を開催したりするなど工夫が見られる取り組みをしています。特別展は両館とも毎年積極的に開催し、内容的にも評価が得られるものになっていると思います。

◆ 資料叢書発刊等に携わった方々に敬意を表すと共に、今後も郷土の資料の発掘に尽力いただきたい。

◆ 資料の保存で、長く後世に残るものですので、大切にしたい。

(様式1)

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート（一次）

事業番号	5			評価者	担当課等	生涯学習課		
事業名称	スポーツ・レクリエーションの振興							
項目名称	(1) みんなが楽しむスポーツの振興ー①							

① 事務事業概要	実施根拠法令		二戸市立学校施設の開放に関する規則						
	実施方法		☒ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 補助金交付 ☐ その他（ ）						
	事業費内訳		☐ 国庫補助 ☐ 県単 ☒ 一般財源 ☐ その他（ ）						
	対象（～に対して）		市民						
	目的（目指すべき姿）		学校体育施設を地域の生涯スポーツ活動施設として開放し、市民の体力向上に努める。						
	事業内容 (平成23年度)		教育委員会が指定した学校の体育施設の開放						

② 事業実績・効果	区 分			単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	事業の実績	1	利用登録団体	団体	19	19	18	15	15
		2	利用日数	日	508	490	453	317	306
事業効果	1	利用人数	人	6,207	5,976	5,233	3,583	3,474	

③ 事業費	区 分			単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	決 算 額			千円	204	170	206	98	132
	年度の歳出（節別内訳）			千円	報償費	報償費	報償費	報償費	報償費
					174	131	121	94	90
			千円	需用費	需用費	需用費	需用費	需用費	
				30	29	77	4	32	
				役務費	役務費	役務費	役務費	役務費	
				10	8			10	

④ 事業評価	担当課による一次評価 (内部評価)	【必要性】 現在ある市内の体育施設では、利用団体の需要を満たしている状況にないため、夜間の利用が少ない学校の体育施設を活用し、スポーツ団体の需要に少しでも応える必要がある。 【有効性】 市内のスポーツ団体のニーズに対応し、学校の体育施設を有効に活用できている。 【効率性】 学校施設の活用により、社会体育施設の混雑緩和が図られている。 【公平性】 学校行事が少ない平日の夜間を利用しており、また、団体への許可に際しては学校に都合を確認した上で行っている。							

2 外部評価（二次評価／検証委員の意見・提言等）

Ⅱ 二戸市教育振興基本計画に基づく平成23年度「基本方針（目指す姿）を実現するための施策の方向」の取組実績

5 スポーツ・レクリエーションの振興 ～スポーツを通じた健康づくりを進めるために～

- (1) みんなが楽しむスポーツの振興
- (2) 夢と感動の競技スポーツの推進

5－(1) みんなが楽しむスポーツの振興－①

- ◆ 学校施設の開放に関する事業について評価分析しておりますが、適切に行われていると思います。ただ、気になったのは、「基本計画」にスポーツクラブ数とスポーツ指導者数の数値目標が示されているので、23年度においてはこれらに関する事業の取り組みがあったのか、無かったのか。何らかの説明と評価分析があったほうがいいのではないかと思います。「基本計画」に明記されていない学校施設の開放に関する事業について評価分析を行い、明記している事業について全然触れないということは、行政についての整合性を疑われかねないと思います。
- ◆ 学校の体育施設の開放は、長年行われており、大きなトラブルもなく活用されるようになってきたように感じる。今後も使用団体のリーダーの養成を図り、有効活用を推進してほしい。

(様式1)

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート（一次）

事業番号	5			評価者	担当課等	生涯学習課
事業名称	スポーツ・レクリエーションの振興					
項目名称	(1) みんなが楽しむスポーツの振興ー②					

①事務事業概要	実施根拠法令						
	実施方法	☒ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 補助金交付 ☐ その他（ ）					
	事業費内訳	☐ 国庫補助 ☒ 県単 ☒ 一般財源 ☒ その他（起債）					
	対象（～に対して）	市民					
	目的（目指すべき姿）	既存の施設の整備を進めるとともに、市民が気軽にスポーツ・レクリエーションができる施設の整備や充実に努める。					
	事業内容 (平成23年度)	体育施設の整備、修繕、改修					

②事業実績・効果	区 分			単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	事業の実績	1	修繕	件	31	33	29	44	40
		2	改修工事	件		2	3	3	2
		3							
		4							
	事業効果	1							

③事業費	区 分			単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	決 算 額			千円	2,553	43,945	63,689	10,989	19,497
	年度の歳出（節別内訳）			千円	修繕料 2,553	修繕料 1,871 工事請負費 42,074	修繕料 1,727 工事請負費 61,962	修繕料 3,933 工事請負費 7,056	修繕料 10,467 工事請負費 9,030

④事業評価	担当課による一次評価（内部評価）	【必要性】 老朽化した体育施設などの改修を計画的に推進し、良好なスポーツ環境を整備、維持する必要がある。 【有効性】 修繕や改修工事が必要な施設の中から緊急性・優先度の高いものを選択し、修繕・改修を実施した。 【効率性】 緊急性・優先度の高いものから実施するとともに、地域活性化・きめ細かな交付金・緊急雇用創出事業等の有効活用を図った。 【公平性】 定期的な巡回を行いながら、緊急性・優先度の高いものを選択し、計画的に良好なスポーツ環境を整備・維持する必要がある。 23年度に行った主な修繕の内訳（単位：千円） 浄法寺体育館バスケットライン（630）、浄法寺体育館バスケットボード（2,877）、総合スポーツセンターバスケットゴール（1,658）、総合スポーツセンターバスケットライン（966）、各体育施設震災復旧関係（1,359） 23年度の工事請負費の内訳（単位：千円） 多目的運動場整備費（9,030）							
-------	------------------	--	--	--	--	--	--	--	--

2 外部評価（二次評価／検証委員の意見・提言等）

Ⅱ 二戸市教育振興基本計画に基づく平成23年度「基本方針（目指す姿）を実現するための施策の方向」の取組実績

5 スポーツ・レクリエーションの振興 ～スポーツを通した健康づくりを進めるために～

- (1) みんなが楽しむスポーツの振興
- (2) 夢と感動の競技スポーツの推進

5－(1) みんなが楽しむスポーツの振興－②

- ◆ 平成23年度の事業実績を見ると、修繕も改修工事も前年度比で減っていますが、決算額を見ると前年度より大きな額となっています。ということは、前年度に比べると規模の大きな修繕や改修工事が多くあった年だったということでしょうか。

また、難しい修繕や工事で苦労したというようなことはなかったでしょうか。施設の老朽化が進んでいるようにも伺えますが、危険箇所を見落とすことなく、安全・安心、清潔感が漂う使い心地の良い体育施設を維持していけるよう期待しております。

- ◆ 評価の視点は、シートのとおりで良いと思います。施設の有効性を低下させないように努めていること。効率よく事業実施できるよう努めたこと。特定の施設に片寄ることなく全体に修繕や工事の手が行き届くように努めたことなどが読み取れる評価になっていると思いました。

なお、これからの事業のあり方とか、事業の改善に繋がるようなことにも触れていれば、もっといい評価になったと思います。

- ◆ 体育施設において、安全性を最優先に整備・修繕を進める必要があると考える。

- ◆ 市民が気軽にできるニュースポーツの推進等で、もっと施設の利用を進めたい。

(様式1)

二戸市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況
点検・評価分析シート（一次）

事業番号	5			評価者	担当課等	生涯学習課			
事業名称	スポーツ・レクリエーションの振興								
項目名称	(2) 夢と感動の競技スポーツの推進								
① 事務事業概要	実施根拠法令		補助金交付要綱						
	実施方法		☐ 直接実施 ☐ 業務委託 ☒ 補助金交付 ☐ その他（ ）						
	事業費内訳		☐ 国庫補助 ☒ 県単 ☐ 一般財源 ☒ その他（地域づくり人づくり基金）						
	対象（～に対して）		市民						
	目的（目指すべき姿）		東北大会以上のスポーツ大会を招致・開催することにより、競技スポーツ技術の習得とスポーツに対する市民の意識の高揚を図る。						
	事業内容 (平成23年度)		各種スポーツ大会等の開催						
② 事業実績・効果	区 分			単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	事業の実績	1	岩手総体記念 剣道練成大会	回	1	1	1	1	1
		2	東北総合体育大会 剣道競技	回				1	
		3	ドリームベースボール	回					1
		4	Bjリーグ 公式戦	回					1
	事業効果	1	県大会以上 出場者数	人	607	567	715	803	713
③ 事業費	区 分			単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	決 算 額			千円	90	90	90	590	810
	年度の歳出（節別内訳）			千円	補助金 90	補助金 90	補助金 90	補助金 590	補助金 810
④ 事業評価	担当課による一次評価（内部評価） 【必要性】 全国レベルの講師による講演会の開催や東北・全国レベルのスポーツイベントの招致により、市民の競技力向上に対する意識の高揚に努める必要がある。 【有効性】 青少年をはじめ、広く市民に感動と活力を与えることができる。 平成23年度は、ドリームベースボールに1,615人、岩手総体記念剣道練成大会に約600人、Bjリーグ公式戦に約1,200人の観客が集まり、高いレベルの試合を観覧することができた。 【効率性】 宝くじ事業、地域づくり人づくり基金の有効活用を図った。 【公平性】 高度な技術に触れる機会を提供することで、青少年のスポーツへの意識の高揚が図られる。								

2 外部評価（二次評価／検証委員の意見・提言等）

Ⅱ 二戸市教育振興基本計画に基づく平成23年度「基本方針（目指す姿）を実現するための施策の方向」の取組実績

5 スポーツ・レクリエーションの振興 ～スポーツを通じた健康づくりを進めるために～

- (1) みんなが楽しむスポーツの振興
- (2) 夢と感動の競技スポーツの推進

5－（2）夢と感動の競技スポーツの推進

- ◆ これらの事業の対象を「主催団体」としていますが、主催団体に補助金を交付するだけで、それ以上の支援とか、競技スポーツ推進のための協議などはしていないのでしょうか。主催団体の組織強化とか財政支援により競技スポーツの拡大と高揚を図っていく考えはないのでしょうか。
- ◆ この点検・評価の仕事から掛け離れたことを書かせていただきます。でも競技スポーツの推進には、少しは資することかと思えます。
二戸市からは小保内聖子さんや小舘 操さんというオリンピック選手が出ています。プロスポーツの分野では、白坂長栄さんとか次端光則さんといったプロ野球の選手が出ています。アマチュアスポーツは、かつては福岡高校の先生方が地域のレベルアップに大いに貢献してきました。柔道、駅伝、テニス、投てき競技など、いろいろなスポーツで全国に名を馳せてきました。そういった選手や競技成績を紹介するモニュメントも、コーナーも二戸市にはないように思います。普段から青少年の目に触れさせ、関心を持たせる、そういうものがあってもいいのではないのでしょうか。荷渡のスポーツセンターの内部や周辺にそのようなものがほしいと思います。
- ◆ 可能な限り積極的にスポーツイベントを招致し、スポーツへの意識の高揚を図りたいと考える。会場へのアクセスの整備や、宿泊施設等について関係団体と連携を深める中で推進を図りたいと思う。